

# 吹奏楽部 バンザイ!!

オザワ部長 著

コロナに負けない

	Chapter 5 第五章	Chapter 4 第四章	Chapter 3 第三章	Chapter 2 第二章	Chapter 1 第一章	
						まえがき コロナに立ち向かった吹奏楽部員たちの物語
					<p>オレンジの悪魔 vs コロナ</p> <p>世界的に有名なマーチングバンドの奮闘記</p> <p>○京都橘高等学校吹奏楽部</p>	
					<p>コロナ禍でも走っていきよう、明日も！</p> <p>全国大会常連校のリモート合奏</p> <p>○東海大学付属高輪台高等学校吹奏楽部</p>	
					<p>仲間がいたから、ひとりじゃないから……</p> <p>コンクール代替大会で見つけた吹奏楽するの意味</p> <p>○水戸女子高等学校吹奏楽部</p>	
					<p>全国大会さでっぞ！</p> <p>コロナ禍を乗り越え、たった12人で挑む56年ぶりの全国大会</p> <p>○山形県立鶴岡工業高等学校吹奏楽部</p>	
					<p>演奏のディスタンス、心のディスタンス</p> <p>復活を目指した名門吹奏楽部の関係者限定定期演奏会</p> <p>○北海道札幌白石高等学校吹奏楽部</p>	
					<p>あとがき 箱の中に残ったものは…</p>	
255	207	159	109	61	5	4

## まえがき コロナに立ち向かった吹奏楽部員たちの物語

部活動の中でも特に熱いことで知られている高校の吹奏楽部。青春をかけて大好きな音楽に没頭していた部員たちを突如襲ったのは、世界中をパニックに陥れた新型コロナウイルスでした。3カ月にも及ぶ臨時休校、コンクール・コンテスト・演奏会の中止など、吹奏楽部は自分たちの音楽を外部に届ける機会を失いました。練習にも大きな制限がかかり、「吹奏楽部の日常」が大きく揺らいだのです。

大人たちですら、どう判断し、行動するべきか迷うような状況の中、吹奏楽部員たちはもがき苦しみながらもそれぞれがひと筋の希望の光を見出して、前へと進み続けました。世界的に人気のマーチングバンド、全国大会常連の強豪校、エーストランペッターを擁する女子校、東北のたった12人の小編成バンド、復活を目指した名門校……。コロナに立ち向かい、輝きを放った5つの吹奏楽部の「汗と涙と音楽」の青春ストーリーをお送りします。

吹奏楽作家・オザワ部長



## Chapter

# 1

## 第一章

### オレンジの悪魔 VS コロナ

世界的に有名なマーチングバンドの奮闘記

京都橘高等学校吹奏楽部

Kyoto Tachibana High School

## 吹奏楽部紹介 High school band

世界的に有名な  
マーチングの名門

京都橋高等学校は、京都府京都市伏見区に位置する共学の私立校。1902年に女子校として創立され、2000年より共学化。サッカー部、女子バレーボール部、陸上部が強豪として知られる。吹奏楽部は1961年に創部され、全日本マーチングコンテスト等の全国大会に多数出場。「オレンジの悪魔」の愛称で多くのファンに愛され、アメリカの大イベント「ローズ・パレード」にも2回出場。現在の顧問は2018年に就任した、トランペットでドイツ留学経験がある兼城裕先生。

## 登場人物紹介 Character



のここ Nokoko  
2020年度吹奏楽部部长  
パーカッション担当



みらレ Mirare  
2020年度吹奏楽部副部长  
テナーサクソ担当



バリー Barry  
2020年度吹奏楽部  
副部长  
チューバ/スーザフォン担当



すーち Suchi  
2021年度吹奏楽部  
部長  
チューバ/スーザフォン担当



## さいこう 最高峰の「緑の床」を目指して

「そこ、ステップが全然そろってへんで！ もっとちゃんとやらなあかんやろ！」  
 のここが厳しい口調で指摘すると、部員たちが「はい！」と大きな声で答える。

「もう1回！」

のここが言うのと、部員たちは重い表情でそれぞれが元いたポジションに戻り、再び楽器を構えた。両脚を巧みに動かしてステップを踏みながら演奏する部員たちを、前に立ったのここは鋭い目つきで見つめる。

京都の冬は寒い。空気が凍てついた体育館の中に楽器の音、シューズが床を擦るキョッキョクという音が響いた。

のここはちつとも寒くなかった。心の中に熱く燃えるものがあつたからだ。

2020年1月、のここは新部長としてみんなのマーチングに目を光らせ、よくないところをビシビシ指摘した。

「のここ」というのは本名ではない。吹奏楽の一ジャンルで、行進やパフォーマン

スをしながら演奏する「マーチング」。その世界では知らぬ者がいないほどの名門が京都橘高校吹奏楽部だ。ここでは、入部するとすべての部員にあだ名が与えられるの伝統になっている。中村菜花は京都橘で「のここ」と呼ばれるようになってもうすぐ3年目を迎えようとしていた。最初はあだ名に違和感があったが、いまでは本名以上に自分らしさを感じられるようになっていた。

「脚が全然上がってへんやん。そんなんで橘のマーチングって言える？」

のここは、楽器を吹きながら演技する部員たちに厳しい言葉を投げかけた。

(代替わりしたばかりなのに、ちよつときついこと言い過ぎやるか……)

ふとそんな考えがこの頭をよぎった。

「言い方が厳しすぎる」とか「マーチングコンテストは8カ月も先なのに、気合い入れるの早すぎちゃう？」とか思っている部員もいることだろう。「のここ、気に食わん」と腹を立てている者もいるかもしれない。

(それでええんや。橘がレベルアップできるなら、うちが嫌われ役になるのも、孤立するのも、全然かまへん。仲良しこよしで楽しく部活をしたり、みんなから好かれたり、リスペクトされたり……そんなことをすべて犠牲にしたって行きたい場所

があるんや)

その日の練習の最後に、のここは部員たちに向かってこう言った。

「体しんどいかもしれへんけど、できないところがあるんやったら、家帰ってからでも練習してな。全国大会に行くためには、少しの時間も無駄にできひんで！」

「はい！」

返事の声は大きかったが、明らかに不満げな表情をした部員もいた。

(これからや。いまはまだ気持ちバラバラでも、いつかみんながひとつになって全国大会に向けて突っ走るんや)

京都府大会、関西大会を突破した先にある全国大会が全日本マーチングコンテストだ。会場の大阪城ホールは「マーチングの聖地」と呼ばれ、グリーンのシートが敷き詰められた「緑の床」はマーチングに取り組む全国の中高生のあこがれの場所だ。そこで演奏・演技をするために、どの団体も厳しい練習を積み重ねている。

9月に行われる京都府大会まではまだ8カ月ある。年末の定期演奏会で3年生が引退し、代替わりしたばかりだ。4月になって新入生が入ってこないといけないこともある。新しいコンテができるのもまだ先だ。

★京都府大会

正式には「京都府マーチングコンテスト」。

★関西大会

正式には「関西マーチングコンテスト」。

★大阪城ホール

大阪府大阪市中央区にある多目的ホール。近年、全日本マーチングコンテストの会場として使用されている。国内外の大物アーティストのコンサート、スポーツイベント、格闘技イベントなどの会場にもなっている。

★コンテ

マーチングで各メンバーの動き方を記したシート。英語の「contingently」の略。



● 京都橘の代名詞といえば、オレンジ色の衣装と《シング・シング・シング》



● スーザフォンなど大型楽器の奏者もダイナミックかつ華麗なステップを披露

しかし、のんびりはしてられない。のここたちの代にとっては、全国大会出場へのラストチャンス<sup>1</sup>の年なのだ。

（うちら117期の3年生にとっては、三度目の正直や。次こそ全国大会に出ような。「緑の床」で《シング・シング・シング》をやるうな）

帰り支度をする部員たちを見ながら、のここは心の中でそう語りかけた。

京都府京都市の南部、桃山御陵の小高い丘にある京都橘高校。

約100人の部員たちが楽器を演奏しながら激しいダンスを交えたマーチングを披露する吹奏楽部は、トレードマークのオレンジ色の衣装から「オレンジの悪魔」という愛称で知られている。そして、もつとも得意としているのが、スウィングジャズの名曲《シング・シング・シング》を演奏しながらのパフォーマンスだ。

40年以上続いている伝統の衣装は「オレンジ」と呼ばれている。ジャンプをするたびに左肩に掛けたマントが弾み、体を回転させるとミニスカートがふわりと浮き上がる。楽器からは会場中に響き渡るようなパワフルな音が飛び出し、打楽器や低音楽器が刻むビートに乗せて「悪魔」たちがフロアの上を舞う。ポニーテールの髪

★117期  
京都橘高校吹奏楽部の場合、学校創立時を1期としている。その代を表す呼称としている。のここたちは学校創立以来17番目の代ということになる。

★《シング・シング・シング》  
「キング・オブ・ザ・スウィング」と称されたルイ・プリマが作曲したスウィングジャズのスタンダード曲。ルイ・プリマはアメリカ人で、作曲以外にトランペット奏者、ボカリストとしても活躍

が揺れ、白い脚が目まぐるしく動く。あたかも生命力そのもののように、音と動きが渾然一体となり、強烈なエネルギーを周囲に拡散する。

激しく動きながらも、全員がびたりとシンクロしているのが京都橘のすごさだ。澆刺とした演奏とパフォーマンス、笑顔によって、見る者の心を一瞬にして鷲づかみにし、虜にしてしまう。

「悪魔」級の魅力を持つ吹奏楽部。まさに、「オレンジの悪魔」だった。

京都橘はマーチングの国内最高峰の大会、全日本マーチングコンテストで活躍するだけでなく、テレビ番組にも取り上げられ、動画共有サイトで公開されているマーチング動画には世界中から称賛のコメントが寄せられる超人気バンドになった。

ところが、2015年を最後に全日本マーチングコンテストからは遠ざかっていった。全国大会の出場権は関西大会の上位3校だけに与えられるが、マーチングが盛んで強豪校がひしめき合っている関西支部の中で苦杯を嘗め続けてきた。

のここも高1、高2で京都橘のマーチングメンバーとして関西大会に出場し、代表入りを逃すという悔しさを味わった。

だからこそ、高校生活最後のコンテストに向けて特別に気合いが入っていたのだ。

#### ★関西支部

吹奏楽連盟が主催する大会（吹奏楽コンクール マーチングコンテスト、アンサンブルコンテスト等）は、北海道・東北・東関東・西関東・東京・北陸・東海・関西・中国・四国・九州の11支部に分かれて行われ、全国大会に出場する代表校を選ぶ。関西支部は京都府・大阪府・滋賀県・奈良県・兵庫県・和歌山県の2府4県で構成されている。



### 夜明け前に見上げた星空

「うゝ、寒っ！」

朝6時半。のここが駅を出ると、あたりはまだ真つ暗だった。

1月の京都は格別に寒い。電車の中でこのはずつとうとうとしていたが、キンと冷えた早朝の空気に嫌でも目が覚めた。暗闇の中でも、息の白さがはっきり見えた。昨日の練習の疲れが残っていて、少し脚が重い。

のここが肩から下げた四角いエナメルバッグには、白地にオレンジ色で「TACHIBANA S.H.S BAND」と書かれている。電車の中でも、通学路でも、多くの人がそのバッグに注目する。のここはちよつと有名人になったような気がして嬉しかった。

（でも、橘の名前と人気にあぐらをかいてたらあかん。高校生活最後の今年は、何がなんでも全国大会に行かな）

ヘッドライトをつけた車が行き交っている道を進んでいくと、やがて学校の門に

たどり着いた。午前7時の開門までにはまだ時間があつたが、すでにいくつかの人影があつた。エナメルバッグを下げた吹奏楽部員たちだ。門が開くより前に集まるのは、吹奏楽部の朝の伝統だった。

「おはよ！」

「あ、のここ、おはよ！」

仲間たちと挨拶を交わす。後からも次々に部員がやってきて、門の前にたまっていった。

(この朝の早さが橘やな)

のここはそう思い、空を見上げた。

(いつ見ても、きれいやなあ)

東から朝が白くはじめはいたが、まだいくつもの星が輝いているのはつきり見えた。京都橘高校に入学し、吹奏楽部に入ってから、何度この早朝の星を眺めてきたことだろう。

どれだけ疲れていても毎日布団から這い出し、夜明け前に学校へやってくるのは、吹奏楽やマーチング、仲間と練習に打ち込む時間が好きだからだ。そして、中学時

代から目指してきた全日本マーチングコンテストに今年こそ出場するためだ。きっと部員たちはみんな同じ思いを持っていることだろう。

門の前にいる部員たちは明るい声と笑顔でおしゃべりに興じている。ときどき声が大きくなりすぎ、のここが「静かに」と注意するほどだ。

(昨日あんなにハードに練習したのに、みんな朝っぱらから元気やな)

のここは思った。その元気が頼もしかった。

やがて門が開き、吹奏楽部員たちは校舎へと続く坂道を登っていった。

校舎の玄関前の植え込みには、濃い緑の葉をつけた背の低い木が立っていた。校名の由来ともなっている橘の木だ。

「かわいい実やな」と誰かが言った。

のここが目を向けると、ミニサイズのミカンのようなオレンジ色の果実があつた。橘の実。マーチングの衣装は通称「オレンジ」と呼ばれているが、そのものになつているのは橘の実の色だ。

「1個取って食べてみよか？」という声が聞こえた。

「こら、ドロボウはあかんで！」と笑いながらのここが言った。

★橘

ミカン科ミカン属の常緑小高木で、日本固有の柑橘類。「ヤマトタチバナ」「ニッポントチバナ」とも呼ばれる。



「はい、部長。わかってます！」

「実際、酸っぱすぎて食べられへんらしいで。ほら、急いで練習開始や」

のここは部員たちをうながしながら、校舎の3階へ上がっていった。そこには吹奏楽部の練習場所となっている音楽室ゾーンがある。

部員たちは慌ただしくエナメルバッグを置いて楽器を取り出し、個々に音出しを始める。あつという間に音楽室ゾーンは多種多様な楽器の音の洪水になる。遅れてやってきた部員たちも急いで準備に取り掛かる。

のここは部員たちとすれ違うたびに声をかけた。

「おはよ！ 今日もがんばるな！」

その声はのこ自身にも響いていた。

(がんばるな、自分！ 今年は燃え尽きるまでやったるで！)

1時間ちよつとの朝練を全力でこなす。その後、のここは大急ぎで片付けをして教室に向かった。早朝に起きて朝練をした後の授業はきつい。猛烈な眠気に襲われることも多い。しかし、のここは決して授業中に居眠りをするとはなかった。

部活が大変だからという理由で「吹奏楽部員」授業をおろそかにする、成績が悪

い生徒」と思われたくはない。それはのこの意地であり、プライドだった。そして実際、のこの成績はクラストップだった。

「自分に厳しく、結果も出していないと、みんなに厳しいことは言えない」

のここは入部してからずっとそう考えてきたし、部長になってなおさら気を引き締めていた。

昼休みには急いでお弁当を食べ、音楽室ゾーンで自主練。放課後は午後7時までみっちり部活動に取り組む。エナメルバッグを肩にかけて校舎を出るころには、登校したときと同じように空には星が輝いている。家に帰ってからも、ステップの練習をしたり、譜読みをしたりする。そして、翌日の朝練のために布団に入る。

のこの1日は完全に吹奏楽部を中心に回っていた。

だが、のここも部員たちも、まだ知らなかった。人類史上誰も経験したことがない未知のウイルスが、自分たちの前に立ちはだかろうとしていることを――。

★譜読み  
楽譜を読み込むこと